ヨーロッパの主な国々の薬局の名称あれこれ

札幌市医師会
JR札幌病院
長多　正美

わたしの前身は薬剤師です。そのせいもあってか、海外旅行をすると訪問先の薬局の看板に目が行きます。他国の薬局の名称に興味があるのです。そこでヨーロッパの主だった国々の薬局の名称を調べてみました。

英国はpharmacy（ファーマシイ）。フランスはpharmacie（ファルマシー）。スペインはFarmacia（ファルマーシア）。ポルトガルはFarmácia（ファルマチア）。イタリアはFarmacia（ファルマチア）。これらの国々の名称は出だしがpharmaで共通しているので、それぞれの語源は同じだと思います。Pharmaは製薬会社、医薬品、薬理学の意味で、薬品・薬剤に関する言葉となります。

ところがドイツに行くと途端にまったく別物になります。ドイツではApotheke（アポテケ）となります。初めてドイツに行ったときにApothekeの看板を目にして、これは一体何の店舗だろう、と店の前に行ってみると、何と薬局だった、との記憶があります。

ヨーロッパの地図を思い描いてみてください。ドイツ連邦共和国は, 国境を接する国が世界で一番多い国ではないでしょうか。北はデンマーク、東はポーランドとチェコ、南東にオーストリア、南はスイス、そして西側には北からオランダ、ベルギー、ルクセンブルク、フランスと、実に９ヵ国の国々と接しているのです。

それでは各国の薬局の名称を順に列記してみます。

①デンマーク：apotek②ポーランド：Apteka③チェコ：lékárna④オーストリア：ドイツ語圏にてApotheke⑤スイス：三つの言語が混在し、ドイツ語圏ならApotheke、フランス語圏ならPharmacie、イタリア語圏ならFarmaciaと３種類となります。⑥オランダ：apotheek⑦ベルギー：フランス語圏なのでpharmacie⑧ルクセンブルク：Apdikt⑨フランス：pharmacie。

国境は接していませんが、ロシアはａｐｔｅｋａ（アプチェーカ）またはApteka（アプテカ）です。ハンガリーはGyógyszertárとちょっと趣が異なります。

さて、このようにヨーロッパでの薬局の名称を見ていくと、あることに思いつきました。それはPharmaが付くのはフランス、イタリア、スペイン、ポルトガルと英国を除いて南西ヨーロッパの国々になります。一方、ドイツ周辺から東地域の国々はApotheの語源のグループになっています。

Apothekeの由来は、ギリシア・ローマ時代にすでに薬物を扱う倉庫あるいは商店を意味する言葉としてアポテカ（apotheca）というラテン語の用語がありました。アポテカはギリシア語のアポテケ（apothēkē）（＜予備に取っておくこと＞の意）に由来し、ドイツ語のアポテケ（Apotheke）、フランス語のアポティケール（apothicaire）、英語のアポセカリー（apothecary）といった後世の薬店、薬局を指す言葉となったとされています。フランス語にも英語にもapotheを語源とする言葉はあるのです。それならヨーロッパ全域がApotheを語源とする名称で共通して表記しても良さそうですが、そうとはならないのには何か理由があるのでしょうか。

今日では言語学的に死語と呼ばれるものにラテン語があります。ドイツのギムナジウム（日本の中学・高校一貫校）では、今も外国語の一つとしてラテン語を必修科目として学ぶところがあります。日本でも医学教育の解剖学用語はラテン語が主体です。

ラテン語（Latin）は、紀元前にイタリア中央西部のラティウム（Latium）地方で用いられた言葉です。ラティウムにはローマという都市が建設され、ローマ帝国の首都に発展し、ラテン語はローマ帝国の公用語として広く用いられるようになりました。

四世紀以降になるとラテン語はキリスト教の公用語としての地位を確立し、広くヨーロッパ社会に宗教的、文化的影響を与えることになったのです。また、ルネサンスを経て18世紀に至るまで、ラテン語はヨーロッパの学問研究の共通言語としてとりわけ重要な役割を担っていました。

「ラテン文学」というのは、南米の文学を指すのではなく、ラテン語で書かれた文学作品を意味しています。今日のイタリア語・フランス語・スペイン語・ポルトガル語などは、ラテン語から派生した言語です。一方、英語・ドイツ語・オランダ語などはゲルマン語から派生した言語です。フランスやイタリアのことを「ラテン・ヨーロッパ」と呼んだりするのも、これらの国の言語―フランス語、イタリア語―がラテン語から生まれた事実に基づいています。

ラテン語で薬局はpharmacopoliumです。まさに南西ヨーロッパの国々で使っているPharmaが出だしの言葉なのです。

ラテン語は文化的には死語ではけっしてないようです。漢字（Chinese character）の誕生は紀元前の中国に遡りますが、漢文化の影響を受けた日本人は、今も漢字を用いることによって新しい文化創造を行っています。同様に、ラテン語の圧倒的な影響を受け続けたヨーロッパ人、特に薬局の名称がPharmaで始まる国々の人たちは、自国の言語を用いながらも、そこに見出せるギリシア・ローマ文化の影響を無意識のうちに「今」に生かし、「未来」に伝えようとしているのでしょうか。

これでヨーロッパでの薬局の名称がドイツを中心に東と西でまったく異なる理由がおおよそ分かりました。また一つわたしの中の疑問が解決しました。もっともPharmaがラテン語から由来している言葉だとご存知の読者の先生方にとっては、今回の話はまったくつまらなく、とんだ茶番であったことをお許しください。